

2018年11月2日

各 位

上場会社名 株式会社 名村造船所  
代表者 代表取締役社長 名村 建介  
(コード番号 7014)  
問合せ先責任者 取締役常務執行役員経營業務本部長 池邊 吉博  
(TEL 06-6543-3561)

2019年3月期第2四半期累計期間業績予想と実績との差異および  
特別利益の発生並びに2019年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

2018年5月11日に公表いたしました2019年3月期第2四半期累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日）の業績予想値と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社が保有する子会社株式を売却したことによる特別利益の発生および2019年3月期通期（2018年4月1日～2019年3月31日）の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期第2四半期累計期間業績予想と実績との差異について

(1) 2019年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値と実績数値との差異（2018年4月1日～2018年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半 期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	69,000	△ 5,000	△ 5,000	△ 5,000	△ 72.46
今回実績(B)	58,944	△ 786	△ 326	△ 1,349	△ 19.55
増減額(B)-(A)	△ 10,056	4,214	4,674	3,651	
増減率(%)	△ 14.6	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2018年3月期第2四半期)	70,484	△ 2,201	△ 2,651	△ 2,888	△ 41.85

(2) 業績予想数値と実績数値との差異の理由

第2四半期累計期間の業績予想数値と実績数値との差異の主たる理由は、当社グループの中核事業である新造船事業によるものであります。

売上面においては、期初（2018年5月11日）に想定していた未ヘッジ外貨の換算レートである1米ドル当たり105円よりも円安に推移したものの、グループ各社で建造量の下方調整を行ったことなどもあり、大幅な減収となりました。

利益面においては、鋼材価格の値上などにより原価は上昇したものの、操業計画の調整により新規受注を抑制したことで将来発生が見込まれる予想損失である工事損失引当金が大幅に減少したこと、円安に推移したことなどにより、期初予想に比べて改善いたしました。

2. 特別利益の発生およびその内容

2018年8月8日に公表しております「特定子会社の異動（株式譲渡）に関するお知らせ」のとおり当社連結子会社であるオリイメック株式会社の株式譲渡の手続きが同年10月1日に完了し、関係会社株式売却益（約50億円）が発生いたしました。

3. 2019年3月期通期業績予想の修正について

(1) 2019年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	134,000	△ 7,000	△ 7,000	△ 7,500	△ 108.69
今回修正予想(B)	129,000	△ 5,000	△ 5,000	△ 500	△ 7.24
増減額(B)-(A)	△ 5,000	2,000	2,000	7,000	
増減率(%)	△ 3.7	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (2018年3月期)	134,887	△ 19,418	△ 20,275	△ 20,554	△ 297.85

(2) 業績予想修正の理由

未ヘッジ外貨の換算レートを1米ドル当たり105円から110円に変更したことおよび原価削減効果により営業利益および経常利益が改善されることに加えまして、オリイメック株式会社の株式譲渡による特別利益の計上により親会社株主に帰属する当期純利益が大幅に改善されました。

※上記の予想は、本資料の発表日現在において、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上